



一般社団法人

日中文化振興事業団

代表理事 胡金定

年報

(2020年度)

第1号



ごあいさつ



一般社団法人日中文化振興事業団の会員の皆様には健やかに過ごしの事とお慶び申し上げます。また、日頃より当事業団の事業運営に格別のご協力、ご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

皆さまご承知のとおり、現在、日本はもとより全世界において新型コロナウイルスの感染拡大により、何物にも代えがたい、多くの人の尊い命が日々失われている悲惨な状況にあります。日本でも緊急事態宣言が発令されるという未曾有の事態に陥り、東京オリンピックの延期をはじめ様々な催しの中止が決定されました。そして、多くの国民が自粛生活を余儀なくされるなど、社会全体に暗い影を投げかけています。

会員の皆様も、自分の命、家族をはじめ大切な方々を守るためにも、感染防止対策に心がけ、コロナ禍に打ち勝てるようくれぐれも体調管理にご留意をいただきたいと存じます。当事業団の令和元年度の事業活動は、皆さまのご尽力とご協力のおかげをもちまして、11月24日に吹田市民ホールで法人設立記念友好コンサートを盛大に開催することができました。令和2年1月から月一回の定期学習講座「荘子」と「三国志」を設け、開催しましたが、コロナの影響で2月から5月の間は休講を余儀なくされました。6月によりやく緊急非常事態が解除されたのを受け、コロナ感染防止対策を万全にしながら講座を再開することができました。その他、予定していた三田市における第二回のコンサートも延期となり、さらには当事業団の諸行事も中止せざるを得ない状況となりました。

当事業団は日中両国の友好交流を促進していく目標を掲げて設立しました。活動として、日中文化交流を中心に、定期学習講座、講演会、交流会、イベント、コンサートなどを行っております。また、一周年を記念して2021年版「日中文化手帳(日中両国関係資料満載)」を新たな日中文化交流の一環として作成することになりました。是非、ご愛用頂きたいと存じます。

今後の取り組みとして、幅広く有意な人材を糾合して、日本の地域創生、SDGsなどを通して、中国との人的な交流を図りたいと思っております。

具体的に、地域社会との連携に力を入れ、会員同士の交流を推進すると同時に日中共同によるイベント開催などを通して、日本と中国の相互理解を深めていきます。今年度はコロナ禍により活動が制限され、会員の皆様にはご期待に添えることができなかつたことに改めてお詫び申し上げます。今後は、コロナ禍というピンチをチャンスに変えるべく全力で取り組んでまいります。

会員皆様の更なるご支援ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

一般社団法人 日中文化振興事業団

代表理事 胡 金定

発刊に寄せて



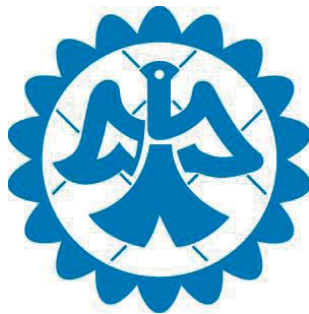
吹田市長
後藤 圭二

一般社団法人 日中文化振興事業団の創立をお祝い申し上げますとともに、会報(年報)が発刊されましたことをお喜び致します。

貴事業団におかれましては、日中の文化振興に幅広くご活動されますことをご期待申し上げます。また、令和元年11月23日には事業団創立のお披露目と中国建国70周年記念日中友好コンサートを千里市民センターで盛大に開催して頂いた事を感謝申し上げます。芸術文化は、人々に感動のみならず心の潤いをもたらします。

本市も、様々な取組みにより市民の幅広い文化活動を支援してまいります。

日中の文化交流を通して両国の相互理解がより一層深まることを期待します。貴事業団の益々のご発展と皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念いたします。



事業報告

平成から令和へと新たな時代を迎えた令和元年度は、5月の改元や10月の消費税改正、さらに年明けからの新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞など激動の一年となりました。

当事業団においても法人設立を果たしたところで事業活動に様々な支障を余儀なくされました。事業団設立記念行事として吹田市のご協力をいただき「日中友好コンサート」を盛大に開催できましたことは、ひとえに関係各位のご尽力の賜と深く感謝申し上げます。そして、定期学習講座開催の準備も整い1月よりスタートしましたが、国から緊急事態宣言が発令され、2月より5月の4か月間、定期講座の休講を判断せざるを得ませんでした。6月に緊急事態が解除されたのを受け、感染防止対策を徹底しながら再講にこぎつける事ができましたことは誠に喜ばしい限りでした。

以下、事業実績を報告します。

●第一回日中友好コンサートの開催

令和元年11月24日、吹田市民大ホールにて「第一回日中友好コンサート」を開催しました。当日は、230名の方が参加いただきました。京都、奈良、名古屋からも駆けつけていただきました。歌手・落語・口笛奏者・詩吟・シャンソン・京劇など多彩な演目で聴衆を魅了し、定刻を30分過ぎても退場する人もなく終了後は異口同音に賛嘆の感想が寄せられました。

多大なるご協力をいただきました行政府の関係者にお礼申し上げます。

第一部 式典 30分

- 一般社団法人 日中文化振興事業団 創立について
- ご来賓祝辞 吹田市教育長 原田 勝氏
衆議院議員 伊佐進一氏
- 祝電披露
- 記念講演会(10分)
演題：令和時代の日中関係のあるべき姿
講師：胡 金定 甲南大学教授
- ギター演奏 永井進治
- 演歌 松原美穂

第2部 祝賀コンサート 90分

- 落語 笑福亭由瓶
- シャンソン 松本和子
- 詩吟 國村良二 (麒声・きせい)
- 口笛 高空(たかもく)好治
- 演歌 川口哲也
- 二胡演奏 裕子(ひろこ)
- 尺八演奏 周松村・しゅう しょうそん(台湾の人間国宝)
- 京劇 秦 爽とその仲間





設立の経緯と役員紹介



代表理事あいさつ



来賓祝辞 伊佐進一(衆院議員)



教育長 原田 勝氏



永井進治ギター演奏



演歌 松原美穂 (司会)



笑福亭由瓶「落語」



シャンソン歌手 松本かずこ



國村 麒声 (詩吟)



演歌 川口 哲也



口笛 高本 好治



二胡演奏 ひろこ



周 松村(尺八演奏)
台湾の人間国宝



中国京劇 秦 爽





友好コンサート フィナーレ

1、定期学習講座の開催について

令和2年1月から定期講座を開催しました。「荘子」は、甲南大学教授の胡 金定 代表理事が担当しました。「三国志」は、当会員で元高校教師の井上 一氏が担当しました。しかし、コロナ感染拡大のため緊急非常事態発令により2月から5月の4カ月間休講を余儀なくされました。

6月によりやく緊急非常事態が解除され感染防止対策を徹底し講座再開が可能となりました。



定期学習講座風景

2、計画していました諸行事についてはコロナ禍の中で断念せざるを得ませんでした。

このことにつきましては次年度の課題となりました。

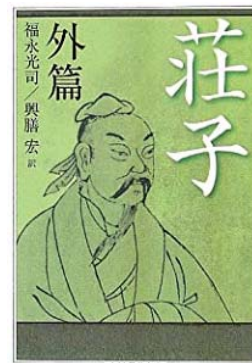
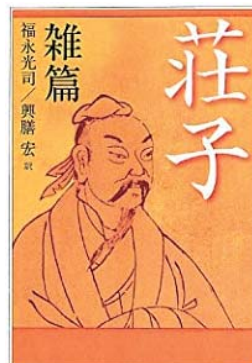
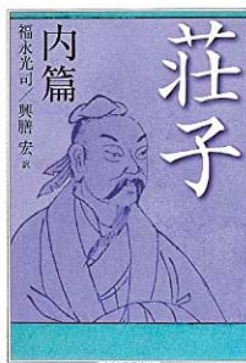


講座テーマ： 莊子(内篇) 「逍遙遊第一」

講師＊胡 金定代表理事(甲南大学教授)

テキスト：ちくま学芸文庫

学習内容：「莊子(内篇)」逍遙遊第一 『莊子 内篇』 訳者：福永光司／興膳宏



莊子は中国古代の思想家で、諸子百家のなかの道家(どうか)の代表者です。人名と著作とも「莊子」なので、日本語では人物は「そうし」、書物は「そうじ」で区別しています。莊が姓、名は周(しゅう)莊周とも言います。現在の河南省商邱(しょうきゅう)県の生まれです。戦国時代の紀元前300年頃から孟子にやや遅れて活躍しました。老子の思想を継承発展させ、道家思想を大成したとされ、「老莊思想」とも呼ばれています。とはいえ、両者の思想は必ずしも一致しているわけではありません。

莊子は、老子の「有は無から生ず」という考えを否定しています。彼は、万物の根本にあるのは「有」でも「無」でもないとし、万物には「是非・善悪・美醜・生死」といった区別や対立はないとします。

書物：『莊子(そうじ)』は内編・外編・雑編に分かれ、合計33篇。莊子とその学統に連なる後人の著作と言われています。寓話を数多く引用し、変幻自在な筆法で、人知の限界を語り、一切をあるがままに受け入れるところに真の自由が成立すると説き、のちの中国禪の形成に大きな役割を果たしました。

2020年度は『莊子・内篇』7篇のうち「逍遙遊」と「斉物論」を習っています。これから時間をかけて、『莊子・内編』、『莊子・外編』、『莊子・雑編』を順次に学習していきます。

『莊子』の各篇は、いくつかの寓話、論文から成り、寓話は奇警、奔放、飄逸で、なかでも『内篇』の文章が優れており、莊子の自著と推定されています。「逍遙遊」と「齊物論」の2篇は、道を体得したいいわゆる至人の自由な境地を説いています。その他の諸篇は、或いは絶対的自由の境地を追って現象世界の一切の差別と対立の諸相(大小、長短、美醜、賢愚など)を一つに考えるべきだとし、変化こそを本質的あり方としています。あるいは道との関連で事物存在の真偽を問題とし、あるいは人間生存の真実態は素朴自足であるとして仁義礼樂を鋭く排撃するなど多様な問題を扱っていますが、要は道家思想展開の種々相を示しているものです。

「逍遙遊」とは、「とらわれのない自由なのびのびした境地に心を遊ばせること、自得の楽しさ」を指しています。とくに「遊」は、世間的な知識と言葉の描く世界「万物」から出て、人間としての自由・独立を可能にするあの「道」に向かって進んでいくための根源的な飛翔であることを指しています。『莊子』の最も中心的な思想の一つです。

「逍遙遊」篇では、開巻劈頭に鵬鯤の大いなる飛翔を描き、そしてその偉大なる飛翔に象徴される「神人」の、世俗の価値からの超越を語り、小さいものに対する偉大なるもの、世間の常識にとらわれたちっぽけな世界に対する、自由闊達な「大」の世界を説いています。この篇の最後には、「小」の世界からの恵施の批判と、それに対する莊子の反論を付け加えています。恵施は、莊子の思想があまりにも超世俗的で、現実的には何の役にも立たないといって非難します。それに対する莊子の答えは「無用の用」です。

例えば、とほうもなく大きな瓢(ひさご)とまがりくねった樗(おうち)の大木の使い方。恵施は、世間の常識に従って、大きすぎる瓢を飲み物用の容器にしようとしたり、分割して柄杓(ひしゃく)としたりして使おうとします。しかし、常識を超えたものに対しては、常識は通用しません。容器にすると重すぎて持ち運ぶことができませんし、柄杓にすると底が平たくて水がこぼれてしまいます。そこで常識人は、自分の無能を棚にあげて「これは無用だ！」と叫びます。それに対して莊子は、その瓢を浮き袋として使って、雄大な長江の流れか広々とした湖に浮かんで、大自然の中でのびのびと遊べばいいではないかと言います。

また、規矩(きく)と繩墨(じょうぼく)も、世間的な価値と規範を指します。常識人は、世間的な価値を超えたものには太刀打ちできません。常識的な有用さの基準で処理しようとするから、とても歯が立ちません。歯が立たないから、真に「大」なるものは、ついには「無用」のレッテルが貼られ、常識の世界から罵倒と嘲笑を受け、放り出され抹殺されます。莊子は「逍遙遊」編において、世俗の常識や固定観念に囚われた世界を離脱して、『有用性・利便性(使えるもの・役立つ人間)』といった判断のものさしを敢えて捨てることによって、無限大に自由でのびやかな境地に到達しようとしています。あらゆる物や人に内在する自由・自然な価値、真の有用性というものを莊子は認識しており、それが恵子の『無用の長物の嘆き(役に立たない巨樹の樗の否定)』を反駁する態度となって現れ、『無用の用』という超越的な真理にまで至っているのです。

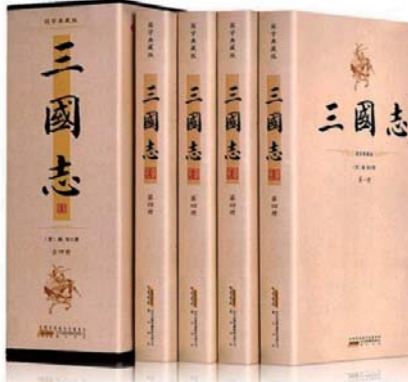
損得や利便にこだわる世俗の人間たちに対峙する莊子は、『無用(役立たず)』とされて捨てられていく者・人』の中にこそ、真の有用性と脱俗的な自由の価値を見出しているのです。世俗の固定観念や評価の目線を抜け出して、『終わりのない彷徨』と『果てしない逍遙』の中で自由に遊ぼうとする莊子は、この編の最後で『世の中のみんな(世俗の社会の基準)』から役に立たないといわれても、それで悩んだり苦しんだりすることは無いではないか(そのもの本来の自然な可能性や価値とは何の関係も無い他人の意見ではないか)と訴えています。

莊子は「逍遙遊」篇の末尾で「無窮に遊ぶものは、何にも頼ることがない。／至人は己(おのれ)無く、神人は功無く、聖人は名無し。」を書いて終わっています。

つまり、世のすべての人々に誉められてもそのためにさらに励むということもなく、世のすべての人々に誹られてもそのためにがっかりするということもなく、内なる自分の心と外界の事物との分別をはっきり立てて(情欲に惑わず)、榮譽と恥辱の境界を区別して(心を落ち着けて)います。

莊子は寓話などを通して、人間として真の生を獲得(自由・独立、「道」の獲得)するための(または獲得した後の)心構えや態度「至人(最高の人)には、私心がなく、神人には功績がなく、聖人には名誉がない(必要ない)」が書かれているようです。

三国志講座



講師：井上一氏(元高校教諭)

学習内容

劉備と三顧の礼

～講座から～

「三顧の礼」－「三」という数字の不思議さ

国志の英雄・劉備は公孫瓚、陶謙、呂布、曹操、袁紹と群雄の間を転々としたあと、荊州の劉表のもとに身を寄せることとなります。関羽や張飛など一騎当千の豪傑を配下にもち、また高い戦闘能力を有しながら、まさに七転び八起き、根無し草のように各地を戦いながら転々としてきました。それは、劉備がグランドデザインを描くことのできる軍師(参謀)をもたなかったからです。

劉表は、劉備を北の曹操への備えとして荊州北部の新野に駐屯させます。これまで戦闘に明け暮れてきた劉備でしたが、「髀肉の嘆(ひにくのなげき)」が示すように、荊州では戦いのない落ち着いた6年余りの日を過ごすこととなります。

しかし劉備はここ荊州で、その後の人生を飛躍へと導いてくれる重要な人物、諸葛亮(孔明)との運命の出会いをすることとなります。

諸葛亮は荊州の隆中というところで隠棲生活をしていましたが、「臥龍(臥した龍)」といわれ、その才能は高い評価を得ていました。劉備は諸葛亮の友人・徐庶から、自ら出向いて行って諸葛亮を招聘するようすすめられます。

劉備の駐屯する新野から諸葛亮が隠棲している隆中まで約60km。「三国志演義」では、夏の暑い盛り、冬の雪の中、劉備は関羽・張飛とともに諸葛亮の草廬を訪れますが、いずれも諸葛亮は不在。年をまたいだ三度目の訪問で、やっと諸葛亮と出会うことができます。諸葛亮は、劉備がみずから三度も出向いてきてくれた真心に感激し、「天下三分の計」を進言して劉備に仕えることとなります。それまで鳴かず飛ばずだった劉備でしたが、諸葛亮を得てはじめて魏の曹操・呉の孫権とならば勢力に成長していきます。時に劉備47歳、諸葛亮27歳。これが「三顧の礼」のストーリーです。

講座では、この「三顧の礼」のところで、参加者の方から「三」という数字はよく出てきますね、たとえば「孟母三遷の教え」とか、という発言がありました。

たしかに、「三」という数字はよく登場します。「三国志」も「三」ですし、劉備・関羽・張飛は「三」人の義兄弟、日本でも「三つ子の魂百まで」、「三度目の正直」など。我が国の天皇家の皇位継承のシンボルは「三種の神器」。このように「三」という数字は象徴的な意味合いでもしばしば使われます。



教材資料

著者：渡邊義浩
だいわ文庫

この話題で講座はひとしきり盛り上がります。本当に三回行ったのだろうか、ただの言い回しではないか、隠棲者の諸葛亮が何の準備もなく、初めて出会う劉備に「天下三分の計」をとっさに話せるものか、等々…。

曹操の子曹丕は、後漢の献帝から皇帝位を實力で篡奪しますが、「禅譲(ゆずられる)」という「形式」を踏み、それも譲るといわれてから「三回」も辞退したうえ、まわりの薦めを断り切れず「しぶしぶ」魏の皇帝となるという形をとりました。そしてそのあとで「舜と禹の行なったこと(禅譲)を、わしは理解したぞ!」と、いったのは有名な話です。

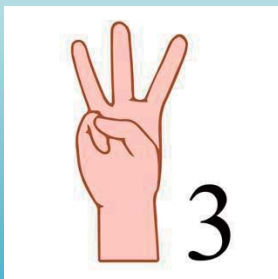
ここから、實力で奪い取っても「三回」辞退するというのは、一種の形式・儀式であったことがわかります。

正史「三国志」の諸葛亮伝にある「出師の表」に、劉備が三度諸葛亮の草廬を訪れてきてくれたとあることから、劉備が「三度」諸葛亮のもとを訪れたのは事実だとおもわれます。しかし「演義」の描くように、二度までが留守で、三度目にはじめて出会うことができ、そこで劉備に滔々と「天下三分の計」を述べるというのは、さすがに無理があると思われます。劉備が「三回」諸葛亮を訪れたのは確かに事実でしょうが、劉備が三度目に初めて諸葛亮に出会ったのではなく、「三回」自ら出向いて行って諸葛亮に出仕を請うたと、というのが本当のところではないでしょうか。これも「三回」という形式を踏んだのでしょう。

ユング心理学では、「三」という数は完全や完成へ向かう力動的な意味を持つとされます。人間の深層心理に根差すもので、洋の東西を問わず昔話や童話で象徴的な意味でしばしば登場します。

また、私たちの日常の生活でも「三」が使われることは多いです。道路を渡るときの信号は「赤・青・黄」の三色。掛け声は「いち・に・の・さん!」。カップラーメンの待ち時間は三分…、まだまだいくらでも出てきますね。

「三」という数字には、どこか人の心をとらえる不思議な働きがあるんですね。



令和3年度事業計画

はじめに

我が国は、平均寿命が世界一の超長寿社会を迎えており、内閣府の高齢社会白書によると「2065年には高齢化率は38.4%に達し、約2.6人に一人が65歳以上、約3.9人に一人が75歳以上の超高齢社会となる。」と報告されています。

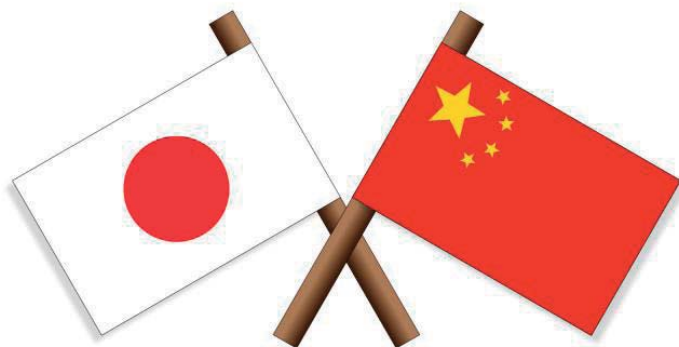
人生100年時代を迎え、国においては、希望する高齢者が70歳まで働けるよう高年齢者雇用安定法の改正等により、高齢者の活躍の舞台は益々拡充するものと考えます。一方で、働き甲斐とともに人生の生きがいとなる場の提供が求められています。心豊かで活躍できる人と人のつながりの場が必要不可欠です。

当事業団の大きな目的も志の高い人々が気さくに学び合い交流することができる事業の推進を主眼に置き取り組んでいきたい。このような目的のもと会員の確保と新規会員の獲得・拡充は、喫緊の課題となっています。

また、今年に入り発生している新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、人や物の移動が滞り、国内消費の落ち込みをはじめ経済活動の停滞など、景気の先行きへの不透明感が増している状況にあります。会員の皆様にはそれぞれの課題解決はもとより、多くの人々との関わりの中で無くてはならない人となり、願わくは地域の灯台的存在となっていければこれにすぐる喜びはありません。一般社団法人としての社会的使命を果たし、その期待に応えるべく、誠実で責任ある事業運営を推進することによって構成員が活力ある地域社会づくりに貢献してまいりたい。

基本方針

- 1、老荘思想を根幹とした定期学習講座の開催
- 2、イベント・コンサートなど幅広く日中友好交流事業の推進
- 3、日本の地域創生、SDGsなどを通して、中国との人的交流を図る
- 4、日中共同によるイベント開催を通して日本と中国の相互理解を深める



事業実施計画

1、定期学習講座の開催

毎月「三国志」及び「荘子」の定期講座を実施

2、日中友好コンサートの開催

- ・日時:令和3年4月3日(土)予定
- ・来賓あいさつ&20分の記念講演
- ・コンサート出演者6名で90分
- ・小ホールのためソーシャルディスタンス確保で定員の50%=150人

3、老荘思想に関わる視察研修を実施

4、内外関係者との交流会

5、一般講演会の開催

6、事業団ホームページの運営

7、会報(旬刊)の発行

8、日中文化手帳の発行

- ・(一社)日中文化振興事業団を広く内外に啓蒙するためのツールとして発行する。

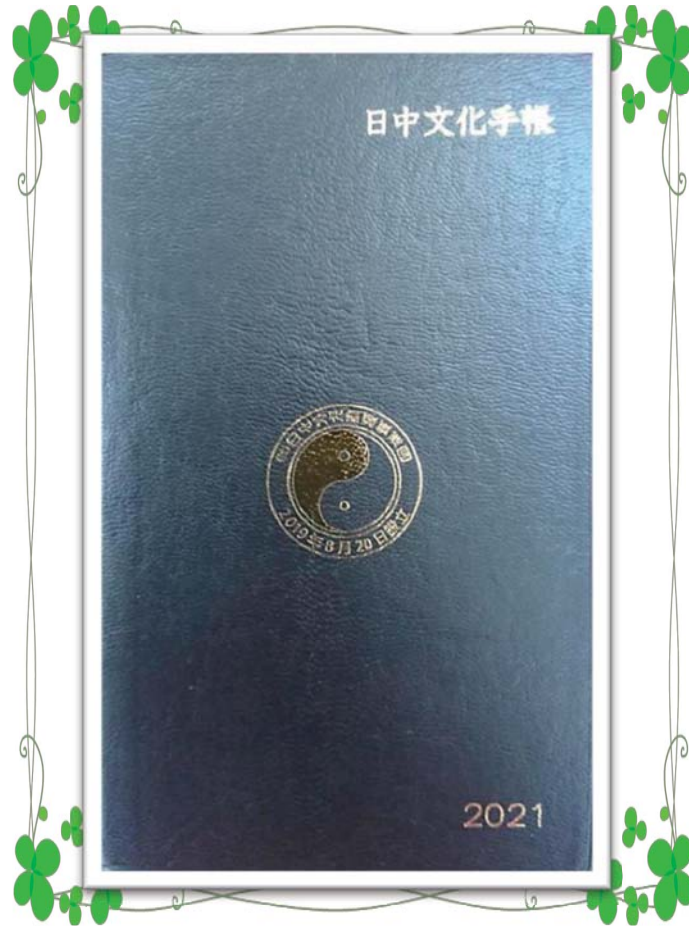
※これらの事業につきましてはコロナ感染拡大の状況を鑑み可能な範囲で実施します。

※開催時におけるコロナ感染防止対策を徹底する。

- 出席者全員マスクの着用
- ソーシャルディスタンスの確保
- 出席者全員手指の消毒を励行
- 出席者全員の検温実施



「日中文化手帳」2021 を 発刊します！



定価:1000円(税込)
サイズ:95ミリ×148ミリ
カラー:ブラック

日中の友好活動に欠かせない手帳が発刊されることとなりました。
日々のスケジュール管理とともに、自身の価値ある行動記録としても
利用になれます。本手帳には、老子の格言や多数の資料が納められるなど、
今までにない構成で日本・中国の役立つ情報が満載。

日中文化友好に是非ご活用ください。

■構成

- ・週間スケジュール、月間スケジュール、年間カレンダー、月間行事一覧、月間情報
- ・中国全図、日本全図、日本歳時記、中国歳時記、住所録など

■資料

- ・日中共同声明(1972)、日中平和友好条約、日中共同宣言、日中共同声明(2008)
- ・日中各地の概況、中国の少数民族、中国の世界遺産、日本の世界遺産
- ・日中歴史年代略表、日中近現代関係史年表、日中の友好都市
- ・在日本の各種機関(大使館、総領事館、関係官庁、友好団体、華僑・華人団体、中国語学校など)

一般社団法人日中文化振興事業団 役員選任

役職名	氏名	任期
代表理事	胡 金定	2 年
副理事長兼事務局長	石井 政	2 年
副理事長	藤田 憲一	2 年
理事	余保 充徳	2 年
監事	松村 信人	4 年



〒540-0088 大阪府中央区大手前1丁目4番2号-703 (都住創・大手前ビル)

Tel : 090-9169-2820 Fax : 090-9169-2820 mail : tadasi@asint.jp